

「ん」は /n/ ?

姫路市立八幡小学校 岡本真砂夫 okamoto-masao@nifty.com

訓令式ローマ字では、「ん」は、「n」ですね。パソコンで入力する際、「nn」と入力すると、「ん」と変換されます。ところで、「ん」の音は、/n/ でしょうか？ 実は、ヘボン式ローマ字では「m」と記述することがあります。「p」「m」「b」の前です。なぜ「m」になるのか、実験をしてみましょう。

「Praat で逆再生をしてみよう」の要領で、まずは「えん」と録音して、逆再生してみましょう。「えん」は /en/ ですから、逆再生すると /ne/ になるはずですが、実際、「ね」 (/ne/) と聞こえます（「んねっ」のようにも聞こえますが・・・）。ですから、「ん」は /n/ で間違いなさそうです。

次に、「あんぱんまん」と録音して逆再生してみましょう。「あんぱんまん」には「ん」が3つあります。/anpanman/ だとすると、逆は /namnapna/ (/なむなぶな/) になりそうね。ですが、逆再生してみると、/mammappa/ (まんまぶま) になります。/n/ が全て /m/ になっています。

「あんぱんまん」の「ぱ」「ま」は、「p」「m」なので、ヘボン式ローマ字のルール通り、その前の「ん」は "m" と表記します。ですので、「あんぱんまん」は、"ampamman" となります（ちなみに、「ヘボン式変換君」のサイトからヘボン式表記を確認することができます）。ヘボン式表記を逆再生すると、/nammapma/ (なんまぶま) になりそうです。しかし、実際に逆再生してみると /mammappa/ (まんまぶま) になっていました。確かに、「ぱ」「ま」の前は /m/ の音になっていることが、逆再生から確認できます。では、「まん」の反対が /nam/ ではなく、/mam/ になっているのはなぜでしょうか。

理由は2つありそうです。

「まん」は、両唇鼻音 /m/ から音が始まるので、唇が閉じた状態から音がスタートします。次に来る「ん」では再度唇が閉じるのが楽なので、自然なようです。また、「あんぱんまん」は「ん」が1文字おきに3連続します。「ん」「ん」「ん」のリズムなので、「m」「m」とくると、3つめは「n」ではなく、1つめ2つめにつられて「m」になってしまいます。ですので、/man/ ではなく、/mam/ となるようです。

日本語の「ん」は、他にも /ŋ/ (eng) の音等もあります。/ŋ/ は、英語では "sing" の語末音です。/ŋ/ は軟口蓋鼻音ですので、軟口蓋音閉鎖音 /k/ /g/ の前に現れます。例えば、「参加」 (/sanŋka/) 「版画」 (/hanga/) 等です。